カトリック高松教区報

２０２３年９月１７日（第２１５号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB　https://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉
歳月を費やして作り上げたものが、一晩で壊されてしまうことになるかもしれません。それでも作り続けなさい。

新大司教区設立
～大阪大司教区・高松教区を核として～

教区事務局長　小山　一　助祭

８月16日にお知らせした通り、教皇さまは新たにカトリック大阪高松大司教区を設立することを発表されました。

この発表について、カトリック中央協議会のホームページの記載とはニュアンスが異なると不安になられた方もいらっしゃるようですが、左下コラムの文章が正しいです。理由は、これが駐日教皇庁大使が初代教区長に内定された前田枢機卿に話されたもので、この決定については高松教区にも大阪大司教区にも未だ文章による通知がなく、大使からの口頭伝達が唯一の正式な両教区への通達だからです。

この通達で教皇さまは、これが二つの教区の単なる合併ではなく、新たな大司教区の創設であることを明言されています。高松教区は財政的にも司祭の数でも苦しんで来続けてきましたが、これまでの司教さま方の粉骨砕身の御尽力で自律自立の道を工夫模索し続けて来ており、諏訪司教さまの退任後も一度も他教区への合併を求めたことはありません。私たちは、核となって私たちを導いて下さる新たな司教さまの着座を求めて祈ってきました。しかし、神さまは私たちの祈りを聴かれそれに応えて、このような道を示して下さいました。ふたつの教区を核にして新しく教区を設立するというのは、全世界の宣教地を管轄する福音宣教省としても世界初の例だそうです。教皇大使は前田枢機卿に、世界初の例で、これが成功したら今後それを教会刷新に向けた新たなモデルにすることが考えられるので、しっかりとした記録を残してほしいと頼まれたそうです。

前田枢機卿さまは、８月５日に大使からこの知らせを伝達された後、すぐに高松教区事務局に連絡下さり、８月８日には大阪大司教区事務部門と高松教区事務局とのオンラインによる会議を求められ、その会議では教皇大使と枢機卿さまとの話し合いについて詳しく報告され、「聖母被昇天の祭日（大祝日）のローマ時間の正午に教皇さまから発表される」ことを報告下さいました。教皇さまの発表の後に大阪大司教区司教顧問会を開かれましたが、直後の８月18日には枢機卿さま自らが高松を訪れ、高松教区の司教顧問会と司祭評議会の合同の集い（現実には、全司牧者を対象に）で、新しい大司教区の設立への経緯とその意味について説明して下さいました。

この新たな大司教区の創設に対し、教区内外に弱小教区の吸収合併という見方が出ることを大司教さまは見越した上で、そうではなく、二つの自立している教区が新設合併（一時、統合という言葉が使われましたが誤りで、統合でなく、今回の場合のような合併には新設合併というそうです）することを目に見える形で示すために、自教区に優先して合併相手先である高松教区を訪れ説明されたのだと思われます。

今後の具体的な歩みについて記しますと、新しい「カトリック大阪高松大司教区」は設立式と初代大司教の着座をもって開始しますが、設立式及び着座式は２０２３年10月９日に大阪カテドラル聖マリア大聖堂にて行われます。しかし、日本の宗教法人法による宗教法人「カトリック高松司教区」は存続し続け、新法人「カトリック大阪高松大司教区」が文化庁から認可を受けた後に解消することになります。認可には時間がかかるので、少なくとも今年度は宗教法人としての高松教区は存在し続けます。

私たち四国のカトリック信徒にとっては、新しい教区の設立を神さまがこの現代を生きる私たちに与えて下さった回心への一つのチャンスとして受け入れ、単なる教区合併と矮小化することなく頑張れたらと思います。

新教区設立式・大司教着座式は大阪で

日時
２０２３年10月９日（月・スポーツの日）　13時

場所
大阪カテドラル聖マリア大聖堂
（大阪府大阪市中央区玉造２－24－22）

設立される大阪高松大司教区の司教座聖堂は大阪カテドラル聖マリア大聖堂に、新たな事務局の所在地は大司教館のある玉造になります。ただし、新宗教法人としての開始日は、今後関係省庁と協議の上進めていく予定ですので、改めてお知らせいたします。それまでは両教区（宗教法人）がこれまで通り業務を継続いたします。

新教区大司教に任命された トマス アクィナス 前田万葉大司教略歴

1949年3月3日	長崎県上五島町生まれ
1975年3月	福岡サン・スルピス大神学院卒業
1975年3月19日	長崎教区にて司祭叙階
1975年4月	福江教会助任
1976年3月	浜脇教会主任
1980年3月	宝亀教会主任
1988年7月	俵町教会主任
1998年4月	田平教会主任
2001年4月	平戸ザビエル記念教会主任
2006年4月	カトリック中央協議会事務局長
2011年6月13日	広島教区司教に任命
2011年9月23日	広島教区司教に叙階
2014年8月20日	大阪教区大司教に任命
2014年9月23日	大阪教区大司教に着座
2018年5月20日	教皇フランシスコにより、6月29日の枢機卿会議において、枢機卿に任命することを発表
2018年6月29日	枢機卿親任
2023年8月15日	教皇フランシスコより、大阪高松大司教区初代大司教として任命
2023年10月9日	大阪高松大司教区初代大司教として着座

カトリック高松司教区の皆様
カトリック高松司教区
教区管理者　イスマエル・ゴンザレス神父

新教区設立と新教区長任命のお知らせ

† 主の平和

かねてより新しい司教さまの任命に向けてお祈りをお願いしておりましたが、このたび、８月15日バチカン時間12時（日本時間19時）に、教皇庁は以下の発表をいたしました。

① 教皇フランシスコは、大阪と高松の両教区を統合し、新たに大阪高松大司教区を設立した。

② また、教皇フランシスコは、現大阪大司教区大司教のトマス・アクィナス前田万葉枢機卿を新大司教区の初代大司教に任命した。

この度の発表は、新しい教区の設立であり、既存の大阪大司教区と高松司教区との合併ではありません。これから、それぞれの教区の担当者によって意見交換を重ねて、神さまが新大司教区に求められていることを識別し、新体制を整えていきます。私たちの祈りに応えて示された神さまのみ旨に信頼し、み旨を理解し、み旨のより豊かな実現に向け、教区一丸となって努力しましょう。予想外のことであり、様々な面でご不安やお手間をおかけするかもしれませんが、皆さまのさらなるお祈りとご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、新大司教区の設立記念ミサや着座に関しては、今後、改めてお知らせいたします。

感謝と祈りのうちに

はばたき

８月15日の大ニュース発表から、ひと月ほどたちました。広報関係では、教区報とウェブサイトの担当者がオンライン会議を行い、今後の方針を協議しましたので、教区報の今後について、前田大司教の承認をいただいた事項をいくつかお知らせします。

今年度中は両教区の教区報をこれまでどおり発行します。高松教区報は、このあと11月、１月、３月の３回発行しますが、新教区設立後の11月号からは、名称が「カトリック大阪高松大司教区報・西部版」（大阪は東部版）になります。今号は高松教区報としての最終号です。

来年４月からは「カトリック大阪高松大司教区報」の名称で一本化されますが、その第１号は、10月９日の設立式・着座式特集号として、10月29日に発行されます。

さて事務的な準備も大切ですが、私たちの心の持ちようについて、８月20日桜町教会でのミサを司式された前田大司教は「10月や　大阪高松　シノダリティ」の句を披露され「ともに歩む姿勢を整えていきましょう」と呼びかけられました。また当日の共同祈願が、本当にそのとおりだと思いましたのでご紹介します。

わたしたち四国の信徒は新しい司教様の任命を祈りながら待っていました。多くの信徒にとっては思いがけない知らせであったかも知れませんが、新しい大司教様のもと、大きく広がった教区のように、わたしたちも大きく心を開いて神様の御旨を求めて歩み続けることができますように。

ワールドユースデー　リスボン大会
若者のキリスト者として歩んでいく励みに

東本和将

WYD（ワールドユースデー）リスボン2023に公式巡礼団として参加しました。

はじめの6日間、コインブラにて「教区の日々」を過ごしました。町中の人たちが僕たちWYD参加者を歓迎してくれました。たくさんの人が「コインブラへようこそ！」「コインブラを楽しんで！」など、歓迎の声をかけてくれて、たくさんの愛を感じました。

「教区の日々」では、各国から集まった若者たちでコインブラの街を散歩したり、粘土細工を体験したり、川遊びをしたり、様々なアクティビティを楽しみました。集合してアクティビティが始まるまでの空き時間には、毎回、バースデーソングや聖歌、各地各国で有名な歌、ダンスが自然と始まり、それがだんだんと広がっていくという現象が起こるのですが、気がつくと自分も一緒になって歌ったり踊ったりしていました。

コインブラでの最終日、ユースフェスティバルがあり、そこで各国が出し物を披露するのですが、日本巡礼団はソーラン節を披露することになりました。ソーラン節を踊るのは中学生の時以来でしっかり踊れるか不安だったのですが、不思議なことに体が覚えていて、みんなと一体になって最後まで楽しんで踊ることができました。

コインブラでの教区の日々が終わり、いよいよリスボンで6日間の「本大会」が始まりました。これまでの疲労もあってか、リスボンに来てから、体調不良者が続出しました。そんな中、最も過酷だったのは、教皇ミサまでの「徒歩巡礼」でした。ミサ会場まで徒歩で行くのですが、水分、寝袋、熱中症対策用品など、普段より重い荷物を背負っての移動で、噂は聞いていたものの、想像を超える過酷さでした。駅やバス停を横目に通り過ぎていく精神的苦痛、日陰の一切ない高速道路。それらを乗り越え、歩くこと4時間、ようやく会場が見える距離までたどり着きました。広大な敷地にぎっしりと埋まるほど大勢の人を目にし、会場にたどり着いた達成感と同時に、若者のキリスト者がこんなにも集まれることに感動しました。その夜、徹夜の祈りがあり、その後会場で野宿をして一晩を越し、翌朝、待ちに待った教皇ミサに与りました。教皇ミサでは、今までの過酷さを忘れられるほどの癒しを受けることができました。

セーラス修道院（コインブラ）

教皇ミサ会場での野宿（リスボン）

聖アントニオ教会（コインブラ）

徒歩巡礼で高速道路を歩く（リスボン）

リスボンでのサバイバルを乗り越えた後のポルトでの3日間は、これまで苦楽を共にした仲間たちと最高に楽しい時間を過ごしました。公式巡礼団全員で与る最後のミサは、3人の司教様方の司式で、お説教も3人分、とても豪華なミサでした。

公式巡礼団の仲間たちとは、涙の別れをしましたが、解散した今でもSNSで連絡を取り合っていて、つながりを感じています。

WYDの2週間、年齢・立場関係なくキリスト者という仲間として、共に時間を過ごしたこと、また同世代の信者が日本中にも世界中にもたくさんいるのだと実感したことで、若者のキリスト者として歩んでいく励みになりました。とても刺激的な2週間でした。

（東本さんは、桜町教会に来られている大学生、地元大阪教区の青年と一緒に参加されました。）

公式巡礼団B日程メンバーの集合写真（羽田空港）

カトリック幼稚園めぐり　徳島地区
神の愛に包まれて

今号は、徳島地区の阿南聖母幼稚園、鳴門聖母幼稚園を紹介します。

阿南聖母幼稚園は、昭和42年2月17日に創立しました。初代マホニー神父様、ハーン神父様、ハー神父様、シルバー神父様、乾盛夫神父様とたくさんの神父様が幼稚園ために心を尽くしてくださいました。モンテッソーリ教育を取り入れ、縦割り保育で子どもたちの「一人でできた」がたくさんになるように子どもを見守り環境を準備し、子どもが育つ手伝いをしています。今年度、スティーブ神父様が園長に就任されました。週1回年長、年中児に英語を教えて下さっています。パソコンを駆使され、子どもたちも映像も見ながら英語に親しんでいます。誕生会でも、パットを使い子どもたちへ神様のお話をしてくださいます。ただ、司祭のお仕事もお忙しく、時々園の行事の変更を余儀なくされたり、しばらくお目にかかれないことがあるのが残念です。

ブラザー八木も年長児に「み言葉の日」として、自らギターやオカリナを演奏されながら、神様からのお恵みを解いてくださいます。また、ブラザーは、「子育て茶話会」として、保護者の方の心のフォローもしてくださっています。

毎日子どもたちが手を合わせ、お祈りする姿に神様の心を見るようです。

鳴門聖母幼稚園は、徳島県鳴門市唯一の私立幼稚園として初代園長バートラム・N・シルバー神父様、第二代園長にはアンジェロ・シアニ神父様、現在は乾盛夫神父様を園長に創立65年を迎え親子2代3代と入園する子も増えてきました。教会と隣接した環境の中で縦割りクラスを取り入れモンテッソーリ教育を実践しています。満3歳児から就学前までの4つの学年の子どもたちが生活する縦割りクラスは、まるでひとつの家族のような雰囲気の中で毎日を過ごしています。誰かと競い合うことではなく、年齢の違った子と接するうちに自然と相手を思いやる心が育ち、自分がやりたいことに自分で選択し最後まで諦めず頑張る強い心も育ちます。

横割り活動の中で年長児はブラザー八木から、みことばの日として神さまのお話を聞いたり、聖歌を歌って神さまの愛を感じる時間を味わっています。また保護者や教職員も月に一度、みことばの日として勉強会をしています。幼稚園と家庭がひとつになって、いつも感謝の心を持って誠実に子どもと向き合うことで子どもは大切に愛されたという安心感を感じ心に平和を生みます。心の平和は思いやりや優しさを育てます。子どもたちが体験するこの幼稚園生活が、これからの人生の土台となって鳴門聖母幼稚園が心の故郷になっていくことを信じています。

～チャプレン　スティーブ神父から～

『弟子たちがイエスのところに来て、「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」と言った。そこで、イエスは一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせて、言われた。「はっきり言っておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ。』（マタイ福音書18章1～4）

4年前に阿南聖母幼稚園の子ども達に英語を教え始めました。週に一回英会話をして、子ども達と一緒にお昼を食べるのはスティーブの楽しみでした。お昼の時子ども達が沢山の質問を聞きました。たとえばスティーブは何でデッカイか？何で肌の色が違うか？何でコンビニのお弁当？お母さんが日本にいないの？寂しくないの？色々な質問でした。毎回いい加減に答えたので何回も子供に怒られました。とても楽しかったです。2年後週に何回もいけるようになり、子ども達との関わりが多くなり、親しみが出来ました。幼稚園の誕生会を阿南教会で行っています。教会の真ん中にある十字架のイエス様を見て『可愛そうですね』『痛そう』『酷い』等の言葉を悲しそうに言われます。オブレート会の十字架をいつも首にかけます。それを見る子ども達はこのイエス様見たことがあるよとか教会のイエス様と似ていると子ども達が話しかけます。そして、何でイエス様が死んだのか、だれが殺したか、とか知りたがる子ども達も多いですね。イエス様が大好きですから十字架のイエス様を首にかけていますと言いますが、かけてない時子どもがイエス様のこと嫌いになりましたかとも聞いてくれます。

単純なことですけれど子ども達と一緒に成長しました。イエス様が何で子どもようになりなさいと言ったのか今分かる気がします。子ども達に勉強を教えてあげたことよりも人生の喜びを子ども達から教えて貰いました。例えばと言葉で説明するのは今の段階で難しいですがまた今度にします。こうやってスティーブを導いてくださる神様に心から感謝いたします。

スティーブ神父と子供たち

教誨師として

高松教区では、岩﨑武神父、高山徹神父、ブラザー八木信彦が教誨師として活動されています。教誨師としての思いをご寄稿いただきました。

高松刑務所での教誨師の活動

高松刑務所　教誨師　高山　徹

私は、２０２０年12月に教誨師としての任命を頂きました。以来、月に一度、高松刑務所において、カトリックの教誨を希望する受刑者の方を対象にした１時間のクラスをさせて頂いております。大体内容を３分割して計画し、余裕があれば受刑者の方の感想や質問に応じます。

第一部、聖歌とマインドフルネスから始め、祈りの区分についてとマザーテレサの祈り等を毎回紹介し、聖書における世界創造と人間の根源的な罪や回心についても毎回触れます。

そして第二部、特定の聖書箇所について朗読、黙想、解説をします。最後に第三部、学びと心の糧になる願いを込めて、少しずつ映画のＤＶＤを視聴します。語りながら、耳を傾けながら、私自身が学ばせて頂きます。振り返ればこの２年半、宗教行事や個人教誨も担当させて頂き、与る任務の意味を味わわせて頂いてきました。一人ひとりとの出会いがありました。今後も研鑽を積み、僅かでもお手伝い出来たらと思っております。

主は今　生きておられる

徳島刑務所　教誨師　ブラザー八木信彦

「イエス様は今も生きていますね。」

開口一番、この言葉から始まった個人教誨（受刑者に寄り添う同伴、面接）。彼（Ａさん）は体に刺青を施していて、顔も険しく怖い表情で、片方の手の小指がない。前回（約２ヶ月に１回）までの個人教誨では、文句や不平不満ばかり吐き出し、何もかもが面白くない、というような訴えだった。だから陰鬱な面接の時間になるなと覚悟しながらこの日も臨んだ。ところがこの日、部屋に入ってくる時から、表情がいつもと違い、満面の笑みだった。

「えっ、ええ、確かに復活したイエス様が今も生きておられますよね。何かあったんですか。」「この前、イエス様について書かれている本を読んでいる時、突然、イエス様は今も生きている、イエス様の愛は本物だ、と気付きました。そしたらうれしくてうれしくてたまらない、笑いが止まらない、そんな感じです。」

あまりにもの前回との違いで開いた口が塞がらなかった。今までの不平不満は完璧になくならないものの、流せるようになった、気にならなくなったとのこと。

「ここまで人って変われるものなんですね。」との問いかけに「はいっ、変われます！」とのＡさんからの力強い応え。彼から真の喜びが伝わってきて、私までホントにうれしくなり、幸せな気分になり、その日のうちに何人もの人に、そしてこれまでもたくさんの人々に、また今回の教区報の原稿を通しても、このＡさんとの対話の話をしている。そして気がついた。これが宣教というものなんだ。イエス様に出会った深い喜びを他の人々に分かち合うこと、イエス様との出会いを通して変われることを全身で証しすること。それを受けた人々はその喜びが伝播していき、いつまでも消えずにずっと心の中で響いている。そして受けた人々の中にもイエス様が息づくようになる。１年以上経った今でもその喜びが消えない。このようにＡさんからイエス様を力強く宣教してもらった。それもまだ洗礼を受けていない方から。

教誨師の務めに携わっていると、彼ら（受刑者）の中におられるイエス様に出会う機会が本当にたくさんある。それに伴う気付きもたくさんある。それは…、彼らを見捨てず、何とかして彼らの過ちをゆるそうとしておられる、そのゆるしを彼らに気付かせようとしているイエス様の深く強い愛だ。

もちろん全ての人ではないが、彼らはその愛に応えようとしている、そのゆるしが可能だと信じようとしている。そういう彼らに寄り添うことができる教誨師でありたい。そして、そういう彼らによって息づかせてくれたイエス様を、いつも醸し出せていられるような修道士でありたい。

教誨師とは

法務省ホームページでは、「矯正施設の被収容者の希望に応じて、民間の篤志宗教家である教誨師が宗教教誨を行い、信教の自由を保障しつつ精神的安定を与え、受刑者や少年院在院者等の改善更生と社会復帰に寄与している」と紹介されています。また、（公財）全国教誨師連盟ホームページには、令和２年１月現在の教宗派別の教誨師の人数が掲載されていて、全国での合計１８２０人中カトリック系教誨師は62人とされています。

日本カトリック看護協会　高松支部のご紹介

日本カトリック中央協議会の公認団体である日本カトリック看護協会は、日本カトリック医師会、日本カトリック医療施設協会とともに日本カトリック医療団体協議会を構成しています。

１９５０年前後には日本の各地でカトリック看護師の倫理的感性を高める自主活動が行われていました。１９５６年、ローマ教皇庁から日本のカトリック看護婦に向けて「修道者と信徒による全国的な組織の設立と国際カトリック看護協会（ＩＣＣＮ）への加入と会議への参加」について要請があり、日本カトリック司教協議会社会福祉委員会担当の当時の横浜教区長、荒井勝三郎司教が、この推進にあたられました。１９５７年５月３日、当時の神山復生病院看護部長でおられた、井深八重氏を会長として日本カトリック看護協会は設立され、１９５８年10月21日、国際カトリック看護協会（ＩＣＣＮ）に加入しました。

井深八重氏は、１８９７年（明治30年）台北で生まれ、１９１８年（大正７年）同志社女学校専門学部英文科を卒業、県立長崎高等女学校の英語教師となりましたが、１９１９年（大正８年）にハンセン病（らい）と診断され、御殿場のハンセン病療養所神山復生病院に入院しました。当時の病院長はパリ外国宣教会の宣教師ドルワルド・レゼー神父でした。入院３年後に誤診と診断されましたが、当時のハンセン病院看護の悲惨さと高齢の外国人宣教師に心を動かされ、病院に留まりました。１９２３年（大正12年）看護師の資格を取得し、病院で唯一人の看護師として働きました。

井深氏は、院内では堀清子という名で呼ばれ、この名前で短歌も残しています。１９５７年（昭和32年）５月、「日本カトリック看護協会」（ＪＣＮＡ）の発足に際し、初代会長に就任するとともに、会歌を作詞しました。１９５９年（昭和34年）２月、ヨハネ23世教皇から聖十字架勲章を受章、１９６１年（昭和36年）９月には第18回フローレンス・ナイチンゲール記章受章、その後受勲、１９７５年（昭和50年）５月、同志社大学より「名誉文化博士」の称号を授与されました。80歳を超えた１９７８年（昭和53年）より現役を退き、名誉婦長となりましたが、早朝ミサでは奏楽を奉仕していました。１９８９年（平成元年）５月16日は神山復生病院の創立１００周年、前日の15日に入院先の病院で心筋梗塞のため帰天されました。式典に出席された高松宮妃殿下始め、多くの方が井深八重さんの死を惜しみ、その92才の生涯に感銘を受けました。

現在のＪＣＮＡには当時、共に看護師として働いた方々がおられ、今日に井深氏を手本として働いています。特にＪＣＮＡの会員は現在では、司祭や修道者の看護、ミサや教区行事での救護活動など宣教活動を側面から援助する働きを行っています。ＪＣＮＡは１９５９年以来全国大会を61回開催し、全国総会は68回開催してきた伝統ある集まりです。

高松支部では、これまでに３回の全国大会を担当しました。最初は、昭和47年に第14回大会を井深会長の下で実施し（写真上）、次は、昭和58年に第25回を（写真中）、最近では、平成７年に丸亀で、水野会長の下で実施しました（写真下）。初回の昭和47年には徳島を除く四国３県から53名のカトリック看護師（内、シスター15名）が集まりました。その時のＪＣＮＡ高松支部指導司祭はＪＣＮＡ京都支部所属の田中健一師でした。

昭和58年には、２回目の全国大会を高松支部長Sr中川ケイ子氏、顧問司祭ホセ・ルクムベリ師の下、教区を挙げて開催されました。深堀教区長やノートルダム清心女子大学Sr渡辺和子学長などが講師として参加され、Sr渡辺のお話が心に残ったという感想が多く聞かれていました。また参加した看護師は、「苦しみの中から生きてみよう」ということばを臨床で生かしたいと感想を述べています。

平成７年の大会は、深堀教区長のもと、丸亀市で聖マルチン病院看護師の藤田芙美緒支部長がリードして開催されました。この大会では、病院からの訪問看護や外国人労働者の健康に関する話題が時宜を得て取り上げられました。

高松支部の最後の大会から、28年が経過しました。現在、高松支部会員は５名です。２０２３年６月の第68回全国総会で高松支部から新しい会長が選任されました。しばらく遠ざかっている高松支部での大会が将来的には期待されています。

四国のカトリック看護師の皆様、紛争や混迷する昨今ではありますが、あなたの看護を見つめる機会として、カトリック看護の集いに参加してみませんか。

次のＱＲコードから、ＪＣＮＡホームページに進み、入会ができます。ご参加をお待ちしております。

ＪＣＮＡ高松支部広報

四国在住ベトナムカトリック青年大会
今治で開催　150人が集う

今治教会の青年
Maria Vu Thi Kim Chi

四国在住ベトナム・カトリック青年大会第1回目は、2023年8月13日と14日に無事に開催できました。

第1回目の開催で地域内の約150人の青年が集まることに加え、青年達と喜びを分かち合っていただく地域内外のシスター方及び神父様方、特に司教様を歓迎できることは大変光栄です。

2023年8月13日の早朝から、青年大会が開催された今治カトリック教会に大勢の若者が集まりました。当日13時ちょうど、ヨセフ郷神父様が大会の開会を告げ、誰もが綿密に計画された一連の活動を心待ちにしていました。

大会には四国地区のみならず、広島、東京、茨城などの遠いところから来た若者も参加したことが知られており、青年の気概と大会の魅力が一層証明されます。

初日から、第1セミナーにおいて、郷神父様のご指導により、100人以上の青年がランダムな8つのチームに分けられ、興味深いテーマに関する話合いに一緒に参加しました。「人生の誘惑」、「時間の概念」、「インターネットの発展による影響（通信）」と「召し出し」のそれぞれのテーマについて、活発な議論を行い、自分の考えや見解を発言し、新しい見方・意見を共有することができました。話し合いで周囲の人々に対して聖母マリアの模範のように、善良さ・愛・謙虚な態度を表すように心を込めて生きていくことが必要だと強めに確かめられました。

その後、トゥイシスターのご指導で聖書についてのクイズを通じて、聖書の知識を定着させる時間を過ごしました。ここで青年たちは再び聖書の出来事、キリスト・イエス、母マリアの生涯を思い出すことができました。この大会に限らず、青年一人一人が積極的に聖書と、私たちが信じ愛する神様についての理解を深めることを願っています。

次に、日曜日のミサに入り、イエズス会の高山親神父様の貴重で意味深い言葉を受けとりました。今日の若者は人生において多くの課題や誘惑に直面しており、自分自身を再評価し、振り返るよう求められています。「私は誰か？」、「私の使命は何か？」、「私の信仰はどこにあるのか？」という質問に対して、自分の中に回答がありますか？教会や社会における各自の価値と使命を感じることができるために、神様が導いてくださいますように！

しばらく休憩した後、四国地域の各グループが手間をかけて準備した演目を次々に演出し、楽しく活気に満ちた雰囲気に浸りました。誰もが明るい笑顔を浮かべ、お互いを幸せそうに見つめ、熱心に声援を送りました。ベトナムのカトリック青年が常に燃え上がるエネルギーを持ち続けていることを、遠くから来たシスター方と神父様方にも誇りに思わせました。

初日はテゼの祈りの時間で終わりました。神様の呼びかけに耳を傾け、神により近づくために心を落ち着かせる時間を過ごしました。神が闇夜に輝く光となって、誘惑に満ちた暗闇から私たちを神に立ち返らせる道を導いてくださいますように！神が青年たち一人一人の祈りを聞いてくださいますように！

大会の初日は終了しましたが、誰も疲れを感じることなく、みんなで話し合ったり、一緒に温泉に入ったりして、過ごしたことを共有したりして、次の日の活動をワクワクしながら待っていました。

次の日、朝一で皆さんはとても早く起きて、一緒に一日を始め、朝のお祈り時間がありました。全員準備が整い、最終日を心待ちにしていました。

二日目に第2セミナーにおいて、あらためてヨセフ郷神父様の御指導により、前日の話し合いに続き、各チームが自分の成果を発表し、皆の前で自分の意見を言い、他のチームからの質問やコメントを受け、回答を示しました。それぞれの視点はお互いの補完的なものであり、部分的には各自の人生を方向づけて生きるのに役立つと思われます。

次はスポーツ活動のような運動会、最も体力を必要とするゲームです。暑い夏の中、会場全体の雰囲気が大きな歓声と熱狂的な拍手、そしてさわやかな笑顔で弾けるようでした。異なる個性を持つ個人が融合し、チームに最も完全な勝利をもたらすために団結しました。

諏訪司教様をはじめ、神父様方とシスター様方も熱心に応援してくださったことで、雰囲気はさらに盛り上がりました。

そして、最後の最後の楽しい食事の時間がきました。皆で食事をしながら、楽しく話し合っていました。

楽しい時間の終わりには、全員で手早く片付けをし、作業分担で一瞬に会場を元の状態に戻しました。目に見えない団結力である統一コミュニティの構築にご協力いただき、ありがとうございました。

最後、諏訪榮治郎司教様の司式に従って、閉会ミサを行

四国在住ベトナム青年大会の想い出と感想

徳島教会の青年　Maria Lê Thị Diễm My

Đại Hội Giới Trẻ Công Giáo Vùng Shikoku 2023 là nơi quy tụ của các anh chị em cộng đoàn Dân Chúa đang sinh sống và làm việc tại 4 tỉnh trong vùng Shikoku tại đất nước Nhật Bản. Được biết đến là Đại Hội đầu tiên của Vùng Shikoku với chủ đề " Cùng mẹ ra khơi " tổ chức tại Imabari tỉnh Ehime, Đại Hội đã mang lại cho chúng con thật nhiều cảm xúc, kỉ niệm và tiếng cười. Trải qua 2 ngày Đại Hội với những đồng đội của mình, chúng con đã cùng nhau hoà mình vào không khí của Đại Hội, cùng ăn cùng ngủ, cùng vui chơi và cùng nhau học hỏi về Thiên Chúa, về Mẹ Maria và Giáo Hội. Khi vừa bước những bước chân đầu tiên vào nhà thờ Imabari và tham dự nghi thức Khai Mạc Đại Hội, lúc ca khúc chủ đề "Cùng Mẹ Ra Khơi" vang lên từ hội trường Wakaba, chúng con thật sự đã choáng ngợp và xúc động với không khí trang nghiêm của Đại Hội. Sau đó chúng con được cùng nhau chơi trò chơi và tìm được các đồng đội của mình với tên gọi và khẩu hiệu riêng. Thật sự trong khoảnh khắc ấy, chúng con cảm thấy mọi người gắn kết như anh em một nhà, chính là ngôi nhà chung của Giáo Hội. Chúng con cũng được học hỏi rất nhiều từ hội thảo của Đại Hội và những bài thuyết trình của các nhóm về các ơn gọi làm con Thiên Chúa, về ảnh hưởng của truyền thông đến đời sống Đức Tin, về những cám dỗ trong xã hội hiện tại…Qua đó, chúng con được hiểu thêm sâu sắc về những thắc mắc, những trở ngại trong đời sống đạo của chúng con. Để từ đó, chúng con có thể vượt qua những cám dỗ đời thường và tìm ra con đường đến với Chúa của mình. Và trên hết, biết đâu sau Đại Hội, ai đó trong chúng con lãnh nhận Ơn Gọi của Thiên Chúa mà dấn bước theo Ngài trên con đường tu sĩ cũng như đời sống gia đình. Điều ấy thật tuyệt vời và đầy thiêng liêng. Tiếp đến, qua giờ Đố Vui Kinh Thánh, chúng con cũng được học hỏi rất nhiều điều về Chúa Giêsu và Mẹ Maria mà trước nay chúng con chưa từng được biết. Ngoài ra chúng con cũng được cùng nhau vui chơi hết mình qua những trò chơi mà ban tổ chức đã chuẩn bị cho chúng con. Và nhất là được tham dự 2 Thánh Lễ trong 2 ngày Đại Hội với các cha, các Sơ và được nghe nhiều bài giảng hay tuyệt. Cũng không quên kể đến các tiết mục văn nghệ đặc sắc từ các sơ, các bài cử điệu sôi động của các nhóm đã làm cho tinh thần chúng con phấn khởi lên nhiều. Đặc biệt nhất đối với mỗi người chúng con có lẽ là buổi cầu nguyện Taize trong những ánh nến lung linh và giọng nói dịu dàng của sơ Thuỷ. Vào thời khắc sâu lắng ấy, chúng con như một lần nữa được nhìn lại chính mình. Trong cuộc sống mưu sinh vất vả nơi đất nước Nhật Bản này, đã có đôi lần chúng con quên mất Chúa. Lúc này đây, dưới ánh nến lung linh này, chúng con nhận ra rằng Mẹ Maria luôn luôn hiện hữu, luôn an ủi và đồng hành cùng chúng con những khi khổ đau, bệnh tật, yếu hèn. Nhờ đó, chúng con như được tiếp thêm sức mạnh và vững tin hơn trên con đường theo chân Chúa. Đại Hội đã kết thúc nhưng đối với chúng con, những khoảnh khắc và những kỉ niệm tuyệt vời này sẽ luôn đồng hành cùng chúng con trên chặng đường Đức Tin của mình. Chúng con hy vọng rằng sẽ có nhiều lần Đại Hội hơn nữa, để chúng con có thêm nhiều cơ hội tìm hiểu, học hỏi và kết nối với toàn thể cộng đoàn Công Giáo nơi đất nước Nhật Bản này. Nhờ đó, tình yêu của Thiên Chúa cũng sẽ được lan toả và nảy sinh hoa trái nơi mỗi người chúng con, để chúng con luôn biết nhân danh Chúa và Mẹ Maria mà dấn thân , hy sinh và phục vụ tha nhân của mình.

（翻訳）

2023年四国在住ベトナム青年大会に、四国の4県に在住し活動する神の民コミュニティの兄弟姉妹が集まりました。愛媛県今治市で開催された「聖母マリアと共に海へ行こう」をテーマにした初の四国地方大会として、たくさんの感動、思い出、笑いをもたらしてくれました。仲間たちと過ごした大会の2日間、私たちは大会の雰囲気に浸り、一緒に食事をし、一緒に寝て、一緒に遊び、神、マリア、そして教会について一緒に学びました。

今治教会での開会式で、若葉ホールからテーマ曲「聖母マリアと共に海へ行こう」が流れたとき、大会の厳粛な雰囲気に本当に圧倒され、感動しました。それから一緒にゲームをして、自分の名前とスローガンを持ったチームメイトに出会いました。本当にその瞬間、私たちは皆が兄弟姉妹、つまり教会という1つの家として団結していると感じました。また、私たちは会議や各グループの発表から、神の子としての召命、信仰生活に対するメディアの影響、社会の誘惑について多くのことを学びました。それによって、私たちは宗教生活における疑問や障害についてより深く理解することができます。そこから、私たちは日常生活の誘惑を克服し、神への道を見つけることができます。そして何よりも、おそらく大会の後、私たちの中には、宗教と家庭生活の道を神に従うよう神の呼びかけを受ける人もいるでしょう。それは素晴らしく、精神性に満ちています。

次に、聖書クイズを通して、イエスとマリアについて今まで知らなかった多くのことを学びました。また、主催者が用意したゲームなどで一緒に楽しむこともできました。そして特に、大会の2日間に2回のミサに神父様方やシスターたちとともに参加し、素晴らしい説教を聞くことができました。シスターたちによる特別な音楽演奏はもちろんのこと、グループの活気に満ちた踊りも私たちの気分を大いに高めてくれました。

私たち一人ひとりにとって最も特別なのは、ろうそくの灯の揺らぎとシスター・トゥイの優しい声の中でのテゼの祈りでしょう。その深い瞬間に、私たちはもう一度自分自身を見つめました。日本での生活の苦労の中で、私たちは神のことを忘れてしまうこともありました。この瞬間、この揺らめくろうそくの明かりの下で、私たちはマリアが常に臨在し、苦しみ、病気、弱さの時に私たちを慰め、寄り添って下さることを実感します。そのおかげで、私たちは神に従う道において強められ、より自信を持てるようになったように思えます。

大会は終わりましたが、私たちにとって、これらの素晴らしい瞬間と思い出は、私たちの信仰の旅路に常に残ります。私たちは、もっと多くの大会が開催され、この日本のカトリックコミュニティ全体と学び、つながる機会が増えることを願っています。そうすることで、神の愛が私たち一人一人の中に広がり、実を結び、私たちは常に神とマリアの名において献身し、犠牲を払い、奉仕することができるようになります。

いました。四国地域全般、そして日本は、将来的に間違いなく多くのベトナムカトリック青年を留学や就労に歓迎することになるだろうと思います。異なる個人ですが、私たちは同じ天の父、同じ信仰、同じ目標を持っていると信じます。

世界中で戦争と自然災害が猛威を振るう中、神様の愛の支配のもとで生きることができますように！平和な世界を築くために私たちの小さな努力を貢献し、兄弟姉妹を愛し、謙虚に生きるマリア様の模範を示してくださいますように。

２日間の青年大会に付き添ってくださった諏訪司教様をはじめ、教区本部事務局、神父様方、シスター様方、ありがとうございました。神様が祝福を注ぎますように！ご健康で司牧活動をし続け、神の群れを導いてくださいますように！

また、大会に集まった１５０人の青年に感謝いたします。大会に来るまでお互いのことを知らなかったかもしれませんが、ここではお互いに知り合って、大会を成功させるために一緒に最善を尽くし、多くの美しい思い出を作ることができました。それらは皆さんの心に刻み、忘れられない記憶だと強く信じます。

地区・ブロックの話題

～東讃ブロック～

高山右近祭　右近の生き方に近づけますように

小豆島教会

７月９日、桜町教会にて高山右近祭が行われ、小豆島からは私を含め９名が参加させていただきました。当日は朝から雨でしたが、行きのフェリーの中では久しぶりの高山右近祭、また島外の御ミサへの参加ということで期待に胸を膨らませ和やかな雰囲気で高松へと向かいました。この日はＧ７都市大臣会合の最終日ということもあり道の混み具合が心配でしたが、スムーズに教会まで行くことができました。

10時から松浦信行神父様の司式のもと御ミサが行われました。その中で神父様は『かんけり』という絵本を読んでくださいました。缶を蹴るという行動に少しの勇気が必要だけれど勇気を出してみんなを助けたことで自分の成長につながるのだと自分と重ね合わせながら聞きました。私にもそんな子ども時代があった

右近像に献香（松浦神父）

し、大人になってからもこの勇気は必要だと思います。御ミサのあとの講話でも神父様は『ようちえんいやや』という絵本を読んでくださいました。この本は私も子どもが小さい頃よく読んでいたので懐かしく思いながら聞きました。「いやや」の気持ちの奥の存在へ気付こうとすることが大切だと改めて思いました。

講話のあと茶話会に参加しました。用意してくださったお菓子などを頂いたり、松浦神父様への質問コーナーがあったり、高山神父様のギター伴奏、我らが濱野さんの先唱で『オリーブの風薫る島で』を合唱したり、とても和やかな雰囲気の中で茶話会は終了し、教会をあとにしました。帰りに駅のお蕎麦屋さんでみんなでお蕎麦を食べました。帰りのフェリーは急遽予定より早い時間のフェリーに乗ることになったので急いで港に向かい、ぎりぎりセーフ！全員で協力して無事フェリーに乗ることができました。島に帰ってきたときには雨も上がり、とても清々しい気持ちで家路に着くことができました。今回様々な事情で参加できなかった方もいらっしゃるので次回はみんなで参加できますように。

小豆島教会では御ミサのあと「福者ユスト高山右近の列聖を求める祈り」を唱えています。棄教を拒んで領地没収・追放となり、ここ小豆島に匿われた右近の目に映っていた景色はどんなだっただろう。戦国時代という競い合う時代にあえて登ることではなく降りることを選んだ右近の生涯に思いを馳せます。少しでも右近の生き方に近づけますように。最後に、高山右近祭を行うにあたり準備などしてくださった桜町教会、番町教会ほか全ての皆さま、ありがとうございました。

濱野さんと高山神父

2022年度カトリック高松司教区現勢調査報告

1．信徒数概況　　2022年12月31日現在

	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	合 計
面　積	1,876.86 Km²	5,675.98 Km²	7,102.91 Km²	4,146.99 Km²	18,802.74 Km²
人　口	931,981 人	1,303,048 人	673,817 人	701,962 人	3,610,808 人
前年度信徒数	1,510 人	1,472 人	613 人	648 人	4,243 人
信　徒	1,500 人	1,469 人	583 人	656 人	4,208 人
司教・司祭	7 人	8 人	6 人	2 人	23 人
助　祭	2 人	人	人	1 人	3 人
修道士	人	人	人	1 人	1 人
修道女	19 人	26 人	人	人	45 人
神学生	人	人	人	人	人
総　数	1,528 人	1,503 人	589 人	660 人	4,280 人
前年度総数	1,543 人	1,506 人	619 人	652 人	4,320 人

2．人員構成

司教		1 人
教区司祭		7 人
宣教・修道司祭	ドミニコ会	6 人
	オブレート会	7 人
	スペイン外国宣教会	2 人
	宣教・修道司祭小計	15 人
助祭		3 人
神学生		人
修道士		1 人
修道女	聖ドミニコ宣教修道女会	40 人
	松山修道院	11 人
	北条修道院	9 人
	新居浜修道院	6 人
	坂出修道院	14 人
	聖母被昇天修道会	5 人
	修道女小計	45 人
教区外司祭		**11 人**

3．諸施設

(1) 教会	
小教区	25 所
巡回教会	2 所
集会所	1 所
(2) 修道院	
男子修道院	2 所
女子修道院	5 所
(3) 教育施設	
＊1 聖カタリナ大学	912 人
聖カタリナ大学短期大学部	102 人
愛光高等学校	727 人
聖カタリナ学園高等学校	1,059 人
愛光中学校	653 人
幼稚園（21園）	2,451 人
(3)＊1：大学院生含む	
(4) 医療／社会福祉施設	
坂出マルチン病院	196 床
高知聖園マリア園	110 人
高知聖園天使園	50 人
高知聖園ベビーホーム	27 人
特別養護老人ホーム聖マルチンの園	50 人
特別養護老人ホームマリアの園	50 人
特別養護老人ホーム白百合荘	66 人
特別養護老人ホーム聖マルチンの家	55 人
(5) **一般事業・その他**	13 所

(4)医療/社会福祉施設について
施設の主な事業のみ記載しています。

4．教区内組織

- 司教顧問会
- 司祭評議会
- 宣教司牧評議会
- 経済問題評議会
- 責任役員会
- 修道女連盟
- 典礼委員会
- 生涯養成委員会
- 青少年宣教司牧委員会
  - 教会学校教師会
  - カトリックボーイスカウト
  - 中・高生会
- 広報委員会
- 人権を考える委員会
- 諸宗教対話委員会
- エキュメニズム委員会
- （高松教区女性の会）
- 高松教区幼稚園連合会
- 神学生養成委員会（一粒会）
- 外国人司牧・ＩＣＣ

※（　）＝休会中

5．信徒数動向

教会名	信徒数 男性	女性	総数	不明	洗礼 幼	成	転出入 入	出	死亡	堅信	初聖体	求道者	教会学校 信	未	ミサ参加 主日	復活	降誕	結婚 ①	②	③	④
桜町	306	485	791	63	4	5	7	9	16	3	4	0	18	43	140	220	290	3	0	3	0
番町	63	97	160	0	1	0	1	3	2	0	0	0	4	0	30	80	55	0	0	0	0
小豆島	24	33	57	11	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	12	20	20	0	0	0	0
三本松	17	20	37	12	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	10	15	15	0	0	0	0
坂出	62	132	194	0	4	2	1	0	4	1	6	0	18	6	100	80	100	1	0	0	1
丸亀	75	92	167	11	0	2	1	0	1	6	2	0	6	0	45	80	100	0	0	0	0
観音寺	8	15	23	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	30	50	100	0	0	0	2
善通寺	28	43	71	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	10	15	0	0	0	0	0
香川県計	583	917	1,500	97	10	9	12	12	29	11	12	0	46	49	377	560	680	4	0	3	3
松山	255	575	830	431	0	3	0	3	8	0	4	2	18	0	137	262	380	0	0	5	0
道後	52	111	163	18	0	1	2	2	0	0	0	1	0	0	43	97	122	0	0	1	0
今治	82	87	169	5	2	11	1	0	1	15	15	5	0	0	70	130	150	3	0	0	0
新居浜	62	93	155	18	0	0	0	0	1	0	1	0	1	4	40	60	60	0	0	0	0
西条	12	22	34	3	1	0	0	0	0	0	3	0	1	7	20	30	30	0	0	0	0
八幡浜	5	24	29	1	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	8	12	9	0	0	0	0
宇和島	24	45	69	0	0	0	2	1	2	6	5	0	5	0	27	36	33	0	0	0	0
伊予三島	8	12	20	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	40	40	50	0	0	0	0
愛媛県計	500	969	1,469	476	3	17	5	8	13	22	30	8	25	11	385	667	834	3	0	6	0
中島町	122	230	352	3	0	0	2	22	7	0	0	0	2	2	49	211	175	0	0	1	1
江ノ口	36	79	115	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3	18	44	51	0	0	0	0
安芸	2	6	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	0	0	0
赤岡	9	15	24	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	11	3	0	0	0	0
中村	11	73	84	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10	30	30	0	0	0	0
高知県計	180	403	583	10	0	0	4	23	8	0	1	0	2	5	84	299	262	0	0	1	1
徳島	126	205	331	77	3	5	0	1	3	2	11	0	5	1	79	220	244	2	0	0	0
鳴門	74	106	180	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	30	40	60	0	0	0	0
阿南	44	55	99	0	0	1	3	0	0	0	1	0	0	0	5	15	20	0	0	0	0
池田	16	30	46	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3	25	40	60	0	0	0	0
徳島県計	260	396	656	77	4	6	3	1	3	2	12	1	8	4	139	315	384	2	0	0	0
教区総計	1,523	2,685	4,208	660	17	32	24	44	53	35	55	9	81	69	985	1,841	2,160	9	0	10	4
前年度	1,530	2,713	4,243	642	33	60	29	71	75	31	23	20	101	66	971	1,871	2,127	6	0	4	0

【結婚】　①＝カトリック同士　②＝カトリックと他のキリスト教　③＝カトリックと他の宗教　④＝非カトリック同士

２０２２年度宗教法人「カトリック高松司教区」会計　資金収支計算書　（２０２２年４月１日～２０２３年３月３１日）

支出の部

科目	教区本部合計	小教区合計	総合計
経常支出の部			
祭儀費	255,198		255,198
諸委員会活動費	406,687		406,687
生涯養成委員会	57,140		57,140
広報委員会	337,047		337,047
典礼委員会			0
青少年委員会			0
人権委員会	12,500		12,500
諸宗教委員会			0
エキュメニズム委員会			0
女性の会			0
教区支援事業			0
外国人宣教司牧委員会			0
宣教活動費	519,603		519,603
助成金支出	3,475,000		3,475,000
小教区助成金	1,475,000		1,475,000
修道会助成金	2,000,000		2,000,000
援助事業費	3,197,746		3,197,746
人件費教区事務局	32,064,042		32,064,042
本俸・諸手当	28,652,400		28,652,400
法定福利費	3,411,642		3,411,642
退職金	0		0
福利厚生費	113,219		113,219
維持管理費	3,928,885		3,928,885
保守管理費	1,629,820		1,629,820
水道光熱費	1,785,957		1,785,957
什器備品費	4,000		4,000
営繕費	0		0
園芸費	2,838		2,838
損害保険料	506,270		506,270
事務管理費	8,644,787		8,644,787
事務印刷費	221,257		221,257
消耗品費	157,074		157,074
電話ＦＡＸ料	112,339		112,339
通信費	453,975		453,975
支払手数料	161,566		161,566
旅費交通費	134,300		134,300
公租公課	727,100		727,100
会議費	151,970		151,970
接待交際費	515,680		515,680
報酬手数料	2,936,311		2,936,311
諸会費	8,000		8,000
リース料	178,200		178,200
自動車諸費	1,006,326		1,006,326
修繕費	1,645,969		1,645,969
賃借料	20,000		20,000
雑費	214,720		214,720
養成費	1,060,000		1,060,000
教育費	0		0
運営分担金	1,060,000		1,060,000
会議費	0		0
旅費交通費	0		0
養成援助費	0		0
宣教司牧費		14,326,073	14,326,073
特定献金支出		4,395,085	4,395,085
世界こども助け合いの日献金		271,348	271,348
聖地献金		83,485	83,485
愛の献金		1,047,969	1,047,969
広報の日献金		190,139	190,139
聖ペトロ使途座献金		165,273	165,273
世界難民移住移動者献金		157,903	157,903
世界宣教の日献金		167,681	167,681
宣教地召命促進の日献金		146,197	146,197
一粒会献金		2,165,090	2,165,090
教区献金			0
納付金支出		29,612,711	29,612,711
教区納付金支出		28,912,711	28,912,711
修道会等納付金支出		700,000	700,000
人件費支出		0	0
運営管理費		29,669,269	29,669,269
補助活動支出		309,393	309,393
墓地・納骨堂管理支出			0
雑損失		0	0
非課税雑損失		0	0
経常支出計	53,665,167	78,312,531	131,977,698
財務支出の部			0
固定資産支出	1,776,690	57,936,226	59,712,916
基本建物購入支出	0	544,500	544,500
普通建物購入支出	0	17,536,332	17,536,332
建物付属設備購入支出	484,000		484,000
構築物購入支出	0	2,852,520	2,852,520
祭儀備品購入支出		549,000	549,000
車輌購入支出	897,790		897,790
器具備品購入支出	394,900	1,054,350	1,449,250
長期貸付金支払支出	0		0
特別目的預金積立支出		35,399,524	35,399,524
固定負債支出		200,000	200,000
長期借入金返済支出	0	200,000	200,000
その他の財務支出	156,759,456	22,573,094	179,332,550
立替金支出	7,805,543	1,553,202	9,358,745
仮払金支出	379,369	20,192,830	20,572,199
未払金支出	2,492,300	150,301	2,642,601
仮受金返還支出	141,345,417	139,830	141,485,247
預り金支出	4,736,827	536,931	5,273,758
内部取引勘定支出	10,037,376		10,037,376
基金勘定支出	1,347,830		1,347,830
教区事務勘定支出	4,277,268		4,277,268
一粒会勘定支出	1,274,540		1,274,540
墓地納骨堂勘定支出	1,419,869		1,419,869
霊性センター勘定支出	1,717,869		1,717,869
資金調整勘定	△2,904,400	△235,015	△3,139,415
期末未払金	△2,904,400	△235,015	△3,139,415
財務支出計	165,669,122	80,474,305	246,143,427
支出計	219,334,289	158,786,836	378,121,125
次期繰越金	668,200,923	118,258,285	786,459,208
支出合計	887,535,212	277,045,121	1,164,580,333

収入の部　（単位：円）

科目	教区本部合計	小教区合計	総合計
経常収入の部			
納付金収入	35,347,679		35,347,679
教区納付金（A）	9,989,000		9,989,000
教区納付金（B）	19,689,000		19,689,000
教区納付金（C）	5,669,679		5,669,679
分担金収入	904,000		904,000
小教区分担金収入			0
その他分担金収入	904,000		904,000
特定献金収入	3,686,871		3,686,871
世界こども助け合いの日献金	1,246,398		1,246,398
聖地献金	97,971		97,971
愛の献金	1,064,469		1,064,469
広報の日献金	200,139		200,139
聖ペトロ使途座献金	209,525		209,525
世界難民移住移動者献金	235,005		235,005
世界宣教の日献金	322,167		322,167
宣教地召命促進の日献金	211,197		211,197
教区献金	100,000		100,000
一粒会献金収入	2,345,090		2,345,090
信徒通常献金収入		52,211,126	52,211,126
教会維持献金		36,796,960	36,796,960
ミサ聖祭献金		13,368,908	13,368,908
大祝日献金		2,045,258	2,045,258
特定献金収入		4,395,085	4,395,085
世界こども助け合いの日献金		271,348	271,348
聖地献金		83,485	83,485
愛の献金		1,047,969	1,047,969
広報の日献金		190,139	190,139
聖ペトロ使途座献金		165,273	165,273
世界難民移住移動者献金		157,903	157,903
世界宣教の日献金		167,681	167,681
宣教地召命促進の日献金		146,197	146,197
一粒会献金		2,165,090	2,165,090
教区献金		0	0
特別献金収入	134,330,988	51,215,178	185,546,166
祭式献金	2,920,800	10,220,115	13,140,915
特別献金	121,087,219		121,087,219
一般特別献金	1,500,000	14,900,216	16,400,216
一般献金	8,822,969		8,822,969
営繕献金		4,983,000	4,983,000
建設献金		20,769,847	20,769,847
特別事業献金		262,000	262,000
共同司牧収入		80,000	80,000
			0
助成金収入		1,475,000	1,475,000
教区助成金収入		1,475,000	1,475,000
墓地・納骨堂収入	5,237,000	2,124,000	7,361,000
非課税永代使用料収入		0	0
課税永代使用料収入	2,250,000	1,780,000	4,030,000
管理料収入	2,987,000	284,000	3,271,000
その他納骨堂等収入		60,000	60,000
補助活動収入		707,800	707,800
行事収入		0	0
課税事業収入		214,580	214,580
非課税事業収入		493,220	493,220
雑収入	93,150	647,630	740,780
課税雑収入	8,250	14,899	23,149
非課税雑収入	84,900	632,731	717,631
事業収入	1,849,259	8,073,341	9,922,600
受取利息配当金	7,259	15,841	23,100
施設利用料収入	1,842,000	765,500	2,607,500
駐車場収入		7,292,000	7,292,000
経常収入計	183,794,037	120,849,160	304,643,197
財務収入の部			0
固定資産収入	1,070,000	31,605,500	32,675,500
基本土地売却収入			0
普通建物売却収入			0
器具備品売却収入		159,280	159,280
車両売却収入	870,000	20,000	890,000
長期貸付金回収収入	200,000		200,000
特別目的預金取崩収入		31,426,220	31,426,220
固定資産負債収入		0	0
長期借入金収入		0	0
その他の財務収入	153,782,052	21,844,313	175,626,365
未収入金収入	190,301		190,301
立替金回収収入	7,483,043	1,553,202	9,036,245
仮払金回収収入	379,369	19,614,350	19,993,719
預り金収入	4,683,922	536,931	5,220,853
仮受金収入	141,045,417	139,830	141,185,247
内部取引勘定収入	10,037,376		10,037,376
基金勘定収入	2,847,830		2,847,830
教区事務勘定収入	4,277,268		4,277,268
一粒会勘定収入	1,274,540		1,274,540
墓地納骨堂勘定収入	1,419,869		1,419,869
霊性センター勘定収入	217,869		217,869
			0
資金調整勘定	△337,303		△337,303
期末未収入金	△337,303		△337,303
財務収入計	164,552,125	53,449,813	218,001,938
収入計	348,346,162	174,298,973	522,645,135
前期繰越金	539,189,050	102,746,148	641,935,198
収入合計	887,535,212	277,045,121	1,164,580,333

教区納付金AB、一粒会献金等をはじめ皆様のご協力に心より御礼申し上げます。
司教区の会計は教区本部合計会計と小教区合計会計とに分かれており、後者については各小教区で管理されています。以下は教区本部で管理する会計についての説明です。
2022年度における高松教区の収支状況（経常収入計と経常支出計との比較）は大幅な黒字のようですが、これは松永神父様の遺産による献金（6445万円）や新居浜教会聖堂の建替えのための寄付金など大口の献金が含まれているためです。ただし新居浜教会聖堂関係の寄付金は、2023年度支出の予定です。
通常の収入に関してはコロナウイルス流行に伴う教会活動の制限により2020年度以後は減少傾向にあり、篤信の方や修道会からの大口献金に依存する状態が続いています。
一方、支出については、各委員会の活動はじめ教会活動もコロナの影響で制限され、それに伴って支出も減少し、縮小均衡の状態です。

教区本部事務局　会計

教区社用車寄贈のお願い

ーー募集内容ーー

・車種・・小型自動車・普通車「3ナンバー車を除く」
・走行距離・・10万キロ以下

皆さまでお持ちのお車のうち、提供可能なお車がございましたら、是非寄付に関してご検討をいただければ幸いです。

お問合せ先：087-831-6659　教区本部事務局

◇教区スケジュール◇

9月
1日（金）すべてのいのちを守るための月間
2日（土）岩永千一師命日
3日（日）年間第22主日　被造物を大切にする世界祈願日
8日（金）聖マリアの誕生
10日（日）年間第23主日
14日（木）十字架称賛
16日（土）拡大宣教司牧評議会　10：00～12：00
17日（日）年間第24主日
18日（月）敬老の日　司牧者懇談会　9：00～12：00
23日（土）秋分の日
24日（火）年間第25主日　世界難民移住者の日
深堀敏司教命日
28日（木）聖トマス西と15殉教者
29日（金）聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使

10月
1日（日）年間第26主日
2日（月）守護の天使
7日（土）ロザリオの聖母
8日（日）年間第27主日
9日（月）大阪高松大司教区設立式
トマス・アクィナス前田万葉新大司教着座式
（大阪カテドラル聖マリア大聖堂）
15日（日）年間第28主日
18日（火）聖ルカ福音記者
22日（日）年間第29主日　世界宣教の日
29日（日）年間第30主日